

石井方式は“漢字で教える教育”

そこで、私は、次のようなお話をいたしました。

「石井方式による“漢字教育”とは、“漢字を教える教育”ではありません。“漢字で教える教育”なのです。

たった今ご覧になったように、お話の中に出てくる言葉を、ただ漢字で書いて見せるだけの教育です。“漢字を教えよう”“漢字を覚えさせよう”などと思わずに、ただ漢字を見せるだけでよいのです。

だから、漢字について、何の説明をする必要もありません。したがって、“漢字指導”などと、特別に取り立てて準備することは、何もありません。

“石井方式・漢字教育”という名前は、石井方式を知らない人が勝手にそう呼んだもので、ほんとうは、“漢字教育”というほどのものではありません。ただ、今では、そう呼ばないと通じないので、私も仕方なしにそう名乗っているのです。

ともあれ、“石井方式・漢字教育”は、ただ漢字を見せるだけの教育であって、漢字を教える教育ではありませんから、指導のために、何の知識も技術もいりません。どなたでも、やろうとさえ思えば、今すぐ

にでもできるものなのです。」

子供たちは、話を聞きながら、漢字をただ見ているだけで、いつとはなしにそれを記憶にとどめていくのです。この漢字は何と読む漢字と教えられたわけでもないのに、あの漢字はこう読む漢字だなと、話を聞きながらひとりで理解し、記憶してしまうのです。

幼児は、出会うものは何でも、皆覚えずにはいられない、……そう言いたいほど、強烈な記憶力をもっているのです。幼児期の子供というものは、すべて、そういうすばらしい能力をもっているのです。

だから、幼児たちは、努力して漢字を覚えているのではありません。幼児たちの心には、「漢字を覚えなければならない」という気持はないのです。“覚えようと思わないのに、ひとりで覚えてしまった”幼児の記憶の仕方は、そのような“無努力の記憶”だということができます。

努力して覚えるのではないから、少しも苦勞はありません。したがって、幼児の記憶の仕方は、“無負担の記憶”だということもできます。いや、それ以上に、“楽しんでする記憶”だ、というべきでしょう。